

あき ふうぜい たの
秋の風情を楽しもう その1



うえ あき ななくさ み うち ひと なん しょくぶつ はな あ
上の『秋の七草』のイラストを見て、お家の人と、何という植物か、話し合ったり、
たし
確かめたりしてみましょう。

じかん ひと ぜ ひ じつぶつ み いがい みちか ばしょ おも
お時間のある人は是非、実物を見てください。意外に身近な場所にもあると思います
が、お花屋さんや、ときにはスーパーマーケットにもあります。

あき ななくさ くわ はなし つぎ よ
（『秋の七草』の詳しいお話は、次のページを読んでね。）

あき の さ はな およびお
秋の野に 咲きたる花を 指折り

かぞ ななくさ はな
かき数ふれば 七種の花

はぎ はな おばなくすばな はな
萩の花 尾花葛花 なでしこの花

おみなえし また ふじばかま あさがお はな
おみなえし また 藤袴 朝顔の花

やまのうえのおくら
山 上 憶良

いま ねん まえ な ら じだい やまのうえのおくら ゆうめい わ か
今から1300年ほど前、奈良時代のことです。山 上 憶良さんという、有名な和歌を
かすおお のこ かじん
数多く残した歌人がいました。

おくら あき いま じ き のやま さんぽ こころ
憶良さんは、秋（ちょうど今くらいの時期）に、野山を散歩しているうちに、心
のこ はな しゅるい かぞ しゅるい
に残った花の種類を数えると、7種類あったそうです。

はぎ はな おばな すすき くすはな ふじばかま あさがお ききょう
それは萩の花、尾花（芒）、葛花、なでしこ、おみなえし、藤袴、朝顔（桔梗）の
しゅるい
7種類でした。

おくら わ か まんようしゅう にほん
憶良さんは、このことを和歌にしました。その和歌は『万葉集』という、日本を
だいひょう わ か しゅう と あ のち よ つた しゅるい はな
代表する和歌集に取り上げられ、後の世に伝わりました。いつしかその7種類の花は
あき ななくさ よ
『秋の七草』と呼ばれるようになりました。

あき ななくさ みなみさわせんせい おばな すすき
ところで、秋の七草のうち、南 沢先生がイメージできるのは、尾花（芒）だけです。
みなみさわせんせい しょうがくせい ころ め み おばないがい しゅるい
南 沢先生は、小学生の頃は、目が見えていました。ですから尾花以外の6種類も、
め おも み なまえ おぼ み とき
目にしていたのだと思います。でも、見るだけで名前を覚えませんでした。見た時に、
なまえ おぼ いま はな おも
きちんと名前を覚えていたら、今でもその花をイメージできるだろうと思うと、とても
き
もったいない気がしてなりません。

め はな むし なまえ おぼ こころ なか つよ や つ
目にした花や虫、ものの名前を覚えることで、心の中にそのイメージを強く焼き付
けることができます。ぜ ひ め まえ ひろ ふうけい こころ ふか きざ
是非、目の前に広がる風景を心に深く刻んでください。きっと
じんせい
人生がゆたかになりますよ。

きょう がつ にち ねん ちゅうしゅう めいげつ まる つきさま なが
今日9月29日は、2023年の中秋の名月です。まん丸のお月様を眺めながら、
きぶん あき ふぜい かん
ゆったりとした気分で、秋の風情を感じてください。